

就職活動に関する学生アンケート調査 2009

【調査要綱】

株式会社矢野経済研究所と学校法人河合塾キャリア教育事業部は、就職活動を経験した短大生、大学生、大学院生を対象に「学生に望まれる就職支援サービス」について次の要綱にてアンケート調査を実施した。

1. 調査期間：2009年6月10日～15日
2. 調査対象：日本全国の短期大学2年生、4年制大学4年生、大学院（修士）2年生の男女700名
3. 調査方法：インターネット形式

＜本調査の背景＞

矢野経済研究所は、河合塾キャリア教育事業部と共同で、2009年8月より就職を控える学生向け「就職支援サービス」を実施する。本プロジェクトでは、過去数回に亘り、就職活動支援に関する学生のニーズを調査・分析してきた結果を踏まえ、第一段として『業界研究講座』を開講する。また、本調査結果は今後の講座内容に活用される計画である。

【調査結果サマリー】

1. 悩み・困ったことについて

内々定がまだ出ていない学生は、「自分探し」と「企業探し」の過程につまずき

『就職活動の悩み・困ったこと』について、未内々定者は、「自分が何に向いているのか？何をやりたいのか？が見つけれない(58.5%)」、「自己分析が上手く出来ない(45.2%)」、「自己分析から具体的な企業選びに結び付けられない(31.1%)」などの回答が、内々定者より高い回答率を示し、中でも「自分にフィットする企業を見つけられない(32.3%)」については内々定者の回答の約2倍を超える結果となった。「自分探し」と「企業探し」につまずきを感じている未内々定者の実態が明らかになった。

2. 力を入れておけば良かったこと・対策について

内々定が出ている学生も、「自己分析」と「業界・業種・企業を幅広く知ること」には反省の念

内々定者について『もっと力を入れておけば良かったこと・対策』は、「自己分析(46.6%)」、「企業研究(多数の企業を幅広く知る)(42.3%)」、「業界・業種研究(多数の業界・業種を幅広く知る)(39.7%)」が上位を占めたが、同結果は自分の適性を踏まえて幅広く業界や企業への情報収集を行い、もっと沢山の選択肢を考えられていれば良かったという反省とも受け取れる。

3. 参加したい「業界・企業研究講座」について

「具体的な仕事内容の解説」のみならず「取り巻く環境や課題の解説」に支持が集まる

『参加したい「業界・企業研究講座」』について、「どんな仕事をしているのかを具体的に解説(51.6%)」といった定番講座への要望に加え、次いで「業界を取り巻く環境や課題を客観的に解説(41.3%)」という結果となった。自分が実際にやることを知りたいと思う一方で、現下の雇用情勢の不安定さを背景に、業界や企業のおかれている外部環境を冷静に判断したいと考える学生が多いことが分かった。

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約270タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL：03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

【調査結果の概要】

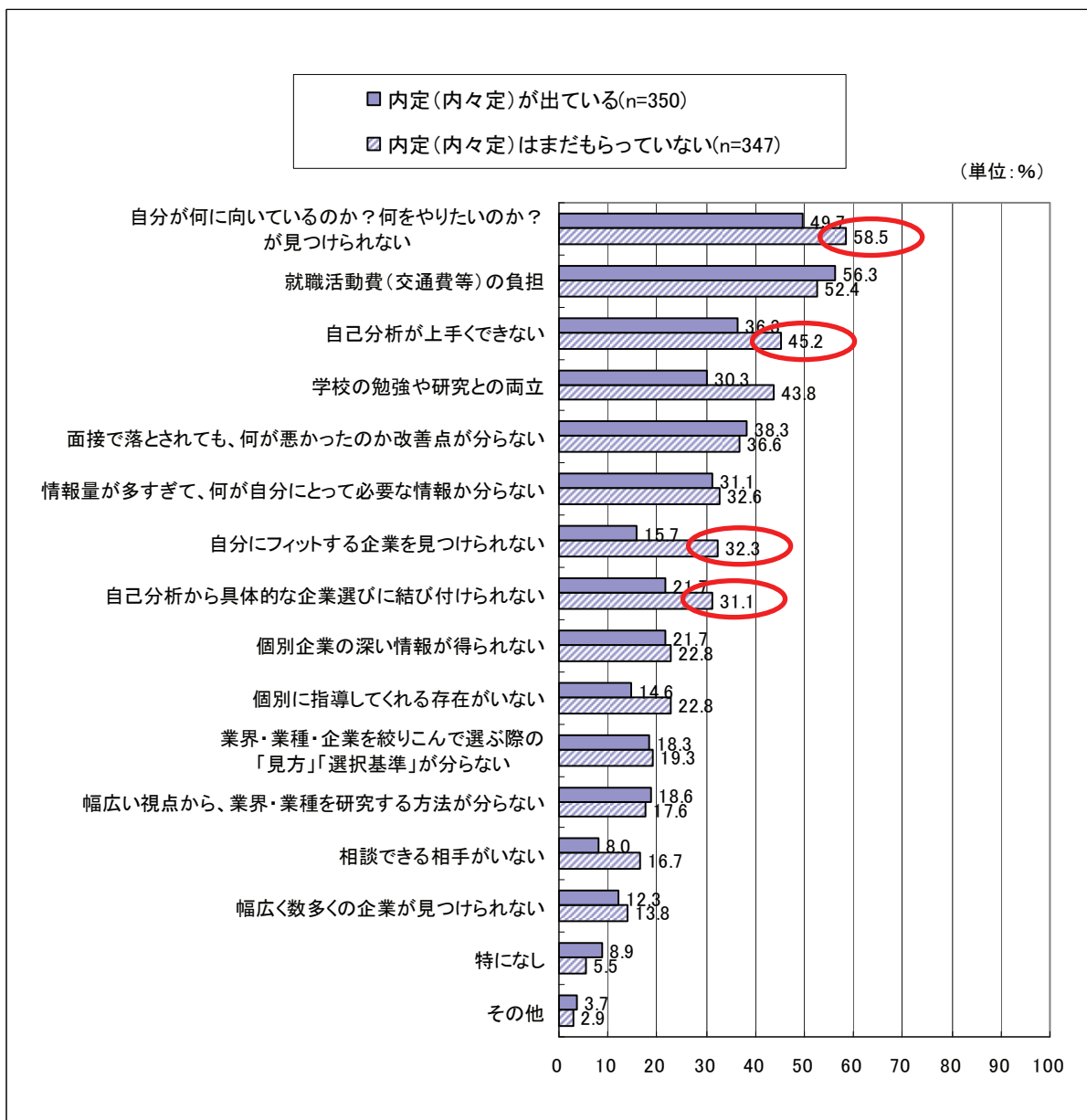
1. 悩み・困ったことについて

『就職活動中に悩んだこと・困ったこと』について、「就職活動費(交通費等)の負担(内々定者:56.3%、未内々定者:52.4%)」は両者に共通して大きい悩みであることが分った(図1参照)。

また、内々定者と未内々定者とを比較をした場合、未内々定者は、「自分が何に向いているのか?何をやりたいのか?が見つけれない(58.5%)」、「自己分析が上手く出来ない(45.2%)」、「自己分析から具体的な企業選びに結び付けられない(31.1%)」などの回答が、内々定者よりいずれも高い傾向にあり、中でも「自分にフィットする企業を見つけられない(32.3%)」については内々定者の約2倍を超える結果となった。「自分探し」と「企業探し」に躓きを感じる未内々定者の実情が明らかになった。

このほか、未内々定者では「学校の勉強や研究との両立(43.8%)」で悩みを抱える学生が4割を超え、内々定者の割合(30.3%)よりかなり高いこともわかった。

図1. 就職活動中の悩み・困ったこと



注1:集計対象 697名、複数回答

注2:無効回答を除く

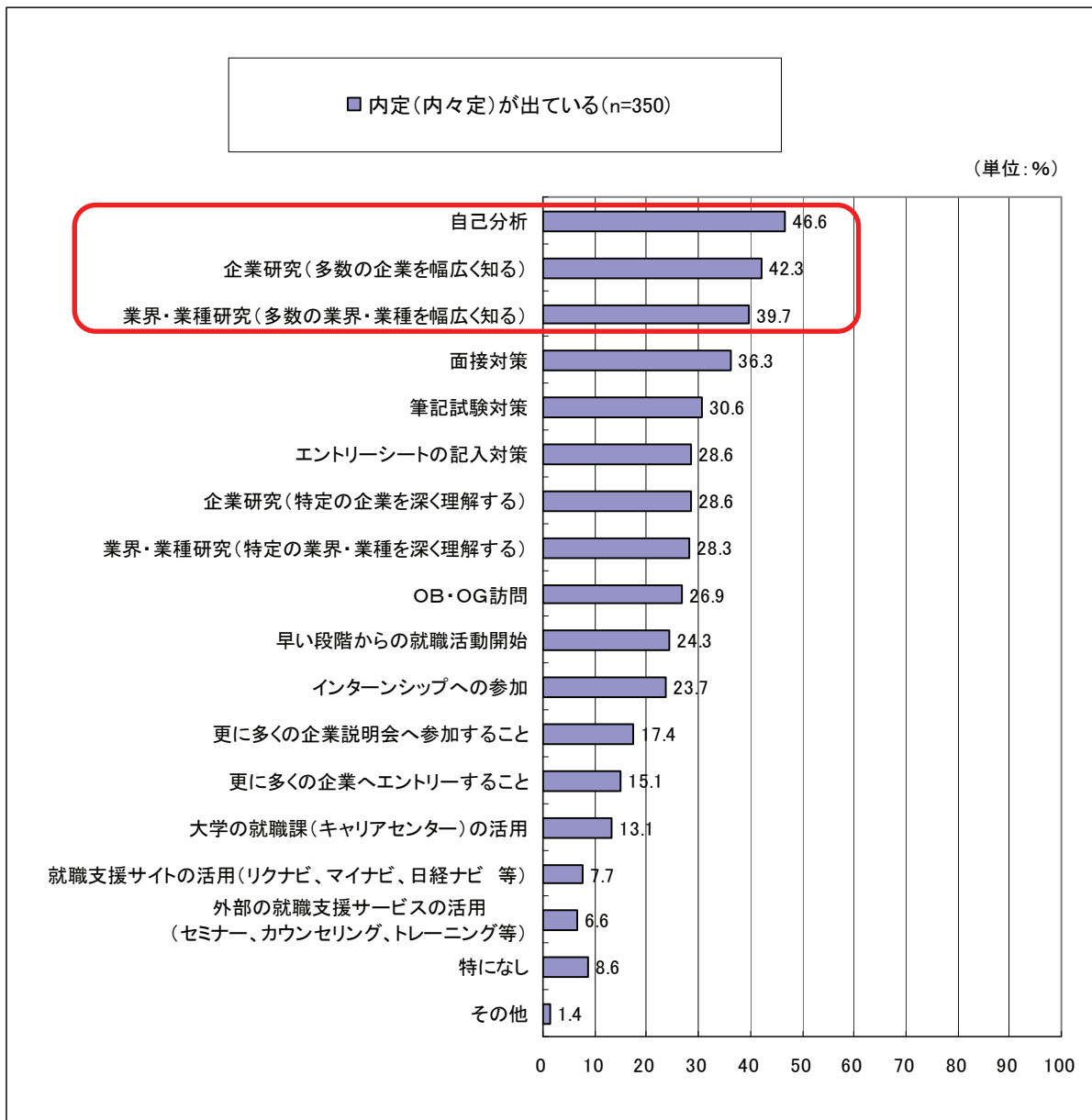
2.力を入れておけば良かったこと・対策について

内々定者について、『もっと力を入れておけば良かったこと・対策』は、「自己分析(46.6%)」が最も多く、次いで「企業研究(多数の企業を幅広く知る)(42.3%)」、「業界・業種研究(多数の業界・業種を幅広く知る)(39.7%)」の順であった(図2参照)。

内々定者がこれらの回答を上位に挙げている背景には、現時点での会社選択に必ずしも満足しておらず、自分の適性を踏まえて幅広く業界や企業への情報収集を行い、もっと沢山の選択肢を考えられていれば良かったという反省とも受け取れる。

上位3つに挙げられた行動は、いずれも将来の方向性を絞り込む就職活動で初期段階に実施する行動であるが、本調査結果からも、非常に重要な就職活動のポイントであることがわかる。

図2. 内々定者のもっと力を入れておけば良かったこと・対策



注3:集計対象は内々定者の350名、複数回答

3.参加したい「業界・企業研究講座」について

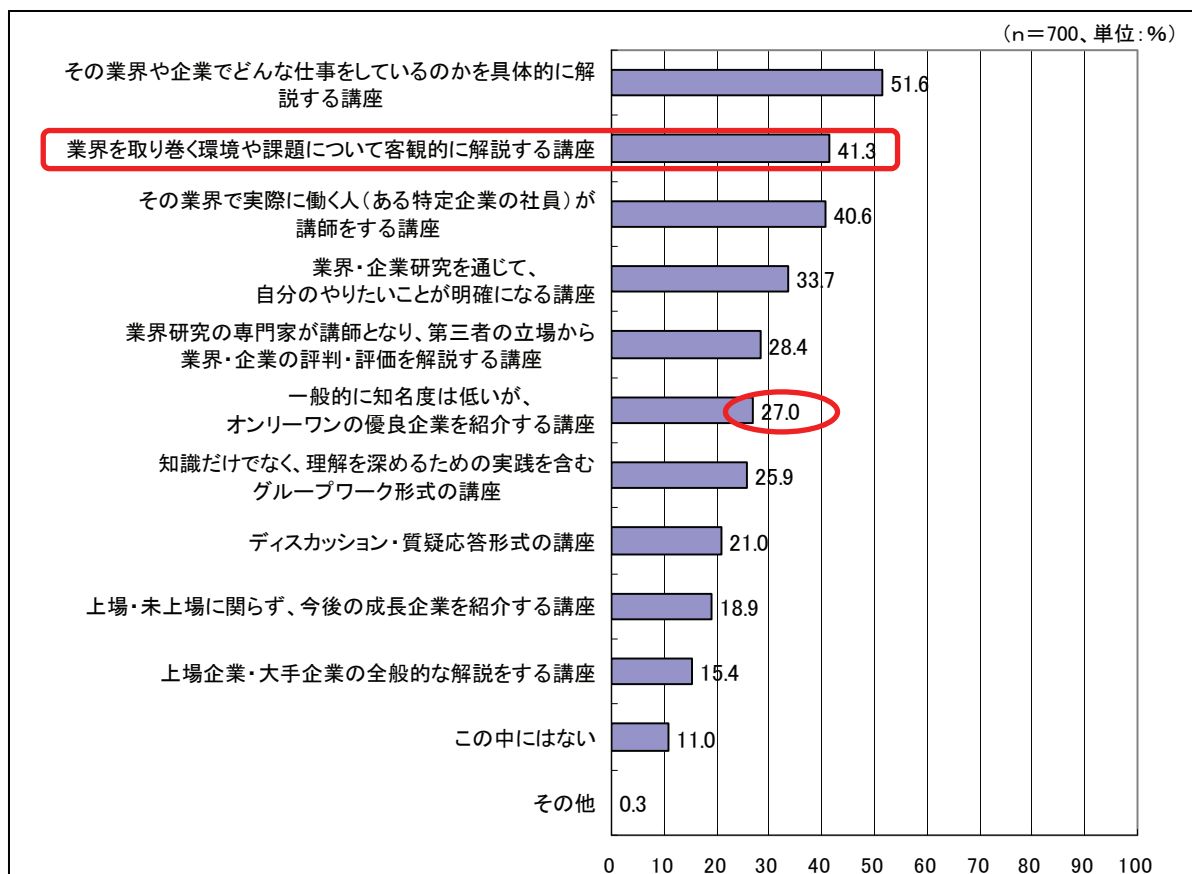
『参加したい「業界・企業研究講座」』について、「その業界や企業でどんな仕事をしているのかを具体的に解説する講座(51.6%)」が最も多く、次いで「業界を取り巻く環境や課題について客観的に解説する講座(41.3%)」、「その業界で実際に働く人が講師をする講座(40.6%)」の順であった(図3参照)。

1位と3位にランクされた、実際に自分がやることになる仕事の中身や現場の人の声を聞きたいというような要望は過去の調査結果からも裏付けられるものであり、現在においても「業界研究・企業研究」の定番講座として既に実施されている。

本調査において注目できるのは、「業界を取り巻く環境や課題について客観的に解説する講座(41.3%)」という回答が上位にきたことである。企業の業績悪化の影響による内定取り消しなどは身近に迫る問題であり、また雇用情勢の不安定さから、自身が目指す企業のリストラや倒産などの懸念を踏まえ、将来入っていく業界・企業について冷静に分析し、判断したいという学生心理の現れであると考えられる。

また、企業紹介や解説については、「大手・上場企業の全般的な解説をする講座(15.4%)」より「一般的に知名度は低いですが、オンリーワンの優良企業を紹介する講座(27.0%)」を望む声が多いことも分かった。

図3. 参加したい「業界・企業研究講座」



注4:集計対象 700名、複数回答

矢野経済研究所作成